報告4

人と防災未来センターへの寄贈資料について

深井 美貴（人と防災未来センター・震災資料専門員）

はじめに

人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災に関して、神戸大学附属図書館震災文庫と同じような資料の収集と保存をしています。震災文庫と大きく異なる点は、震災文庫は図書館ですので、図書資料に準じた資料が中心ですが、人と防災未来センターは震災に関連する様々な資料を収集・保存しており、物資料も多数所蔵していることが大きな特色です。開設は平成14年の4月です。開設前に約2年をかけて阪神・淡路大震災にかかわる資料の収集と調査を行っていますが、現在も引き続き行っています。

1　一次資料調査回数の推移

一次資料とは、阪神・淡路大震災の被害の様子を表す資料や、復旧・復興の過程で作成・使用された資料です。オープンの年は、前年までの調査を引き続き行っていることがあると思われるため、調査回数は多くなっています。その後徐々に減少してきましたが、平成29年に調査回数22回・調査件数16回まで増加し、1期につき2～3回の調査を行いました。28年度において調査回数よりも調査件数が上回っているのは、21年に調査を行った資料の未登録分の登録が済んだためで、2件分の差が生じています。本年度は、29年度ほどではありませんが、既に調査回数は14回を数えており、新規が多いことが最近の傾向のように思います。既に資料を提供して下さった方からさらに新出資料を提供いただくことも多くありますが、調査件数14件のうち12件が新規で新たに提供される資料も増加している印象です。

調査回数・調査件数が増加した一つの大きな理由として、阪神・淡路大震災から時間が経過してきたことによって、資料を手放したいと考える方が増えていることがあげられます。震災時に第一線で活躍したり、指揮をとっていたりした年代の方々が、そろそろ身の回りを整理し始め、自分の持っていた資料を公共機関で大事に保管してほしいという要望がふえてきているという事情があります。

2　所蔵史料点数の増加と課題

最近は大口の寄贈が増加しています。平成29年度は、野村勝さんと小林郁雄さんから、文書箱にしてそれぞれ23箱と34箱という多量の寄贈がありました。29年度はこの2件だけ以外にも多くの資料提供がありましたので、29年度だけで資料約60箱分が増加しました。

野村さんは、人と防災未来センターの語り部のボランティアとしてもご活躍しており、長田区のまちづくり協議会の副会長を当時から務めていた方で、震災時は消防官として活躍していました。そのため、地域のまち協関係の資料や、震災当時の経験を語るにあたっての関連資料などを数多くいただきました。奥様が「あなたが死んだら資料は捨てる」と言ったことをきっかけとして、寄贈に至ったということです。

平成30年1月に寄贈された資料の提供者である小林郁雄さんは、当センターの上級研究員の一人で、まちづくりのプランナーとして震災時も大活躍なさった方です。小林さんは後藤裕介さんの資料を預かっていたところ、2018年に後藤さんが亡くなったため資料の寄贈に至りました。後藤さんもまちづくりプランナーとして様々な地域で震災以前から長い間活躍し、震災後も継続的にまち協の活動に関する資料があり、大変貴重な資料です。

平成30年8月に、日本の災害看護のさきがけである黒田裕子さんが代表を務めていた阪神高齢者・障害者支援ネットワークで、黒田さんが2014年に亡くなって代表を引き継いだ方が、ネットワークも解散しましたので、黒田さんの資料を活用できる場所に置いてほ

しいという相談を兵庫県にしたところ、今年に入ってこちらに資料の受け入れの話が来ました。

大口の資料が増えてきたため、収蔵庫のキャパシティーが大分圧迫されてきています。昨年度・一昨年度までは、毎年5～6箱の増加でしたが、昨年は60箱増え、今年も既に黒田さんの資料だけで14箱増えました。これら以外にも何箱か増えていますので、毎年数十箱単位で資料が増加するのではないかと考えています。長期間ご活躍の方は資料も多くなります。このような大口の資料については、今後5年から先、収蔵庫に収蔵できるかということが懸念されています。いずれは収蔵庫も満杯になりますが、資料収集はセンターの活動の一つの柱ですので、その柱を1本折るということには絶対にしないという方針を、県でもぜひとも固めていただきたいと要望し、2020年に震災から25年を迎えることを機に、県の方針として打ち出してもらえるようにしようということになっています。

阪神・淡路大震災に関しては、20年経過したことが現状につながってきているため、いずれあと10年～15年経てば、東北を始め様々な地域で資料の増加と収蔵庫の不足という事態が起こることが想定されます。私どもの実務者レベルでは外部への預託や受け入れ基準の設定などを検討していますが、やはり収蔵庫が不足すると困りますので、収蔵庫のキャパ不足への対応については、ぜひ今後10年間で検討していただき、困ることのないように頑張っていただきたいということをお伝えします。

3　今年度の取り組み

今年度の取り組みとして、現在企画展を開催しています。「業界紙・専門誌にみるプロフェッショナルたちの阪神･淡路大震災」というテーマです。当センターには業界紙や専門誌が豊富にありまして、各業界や各専門家が独自の視点を持っているため、すごくおもしろいです。様々な独自の視点からの記事を紹介するねらいの企画展です。センターの展示の見学は有料ですが、資料室は無料ですので、機会があればぜひおこしください。